
異世界を渡る男の娘

大雅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界を渡る男の娘

【Nコード】

N2131Y

【作者名】

大雅

【あらすじ】

テンプレのごとく転生して原作に介入してみようと考えてる男の娘
まずは天地無用の世界へ
一応えっちとキーワードに入れましたがそうなるかは分かりません

プロローグ

今、俺は真っ白な空間に胡坐をかきながら座っている。

「どこだココ・・・？」

んー・・・とコメカミを叩きながら記憶を思い出そうとしていたら後ろから声が聞こえてきた

「あのースイマセン？」

振り向くと其処には、女性と幼女が立っていた。

「あつ、やつと気付いてくれましたね。私はヤハウエ、神などをしていません。」

ヤハウエと名乗った女性が急に自己紹介を始めたのを聞きながら、なぬ・・・神？とか考えていたら

「この子はイリス、生まれたばかりなので感情があまり出てないけどよろしくね？」

「ヨロシクネ？」

と見た目4〜5歳の幼女の方も、自己紹介を続けていく。

「あのー・・・話が急すぎて、頭がついていけないんですけど。」「何処です？」

真っ白い空間で気が付く 急に後ろから話しかけられる 急に自己紹介が始まる

普通にこんなことが起きたら頭が付いてこないと思う。

「ああ、そうですね？まずはどこから言えばいいかしら？」

「イイノカシラ？」

などと言いながら神様？（自己申告のみ）とイリスちゃんが首を傾げる。

そして、イリスちゃんの背中を押し俺の前に出させると

「実は、この子に仕事を教えようと思って連れて来たら、あなたの寿命の書類に落書きしちゃって

あなた死んでしまったのよ」「

「ゴメンナサイ」

実にサラッと衝撃の事実を言うヤハウエさんと謝るイリスちゃん

なんか、よく読むSSなどにありそうなテンプレ展開に行きそうな雲行きになってるなあと考えていたら

「こいうのも酷なんだけど、今回のことであなただは輪廻の輪から外れてしまったてどうしようかなと思ってるのよね」

「そうなんですか？ところでイリスちゃん、ちょっとおいで？」
と言いながら手招きしてみる

「？」

トテトテと歩いてきたところを持ち上げ、胡坐の上に座らせ後ろから抱きしめあごを頭の上に置く

思っていたよりも抱き心地がよく、イリスちゃんの方も嫌がるそぶりも見せないどころか

背中を預けウトウトとし始めている。

その後もヤハウエさんと今後どうするかとか話してるうちに、何となくこつこつという転生モノのSSなどを読んだ
と言う話になったところでヤハウエさんが

「それ、いいかも？」

と言い出しテンプレよろしく願い事3個までなら叶えるよ？とのこと
「それじゃ、一つ目は色々な世界（特に漫画とかの世界）を見てみたいから任意で世界を渡るようにできる？」

「んーできるみたいよ？」とヤハウエさん
できるみたい？って誰に聞いたの？とか思いながらも

「二つ目は、情報さえあればどんなこともやれる様になる【学習能力】とかできる？」

「んーできますね」と軽く言ってくる

「三つ目は、アカシックレコードを覗けるようにして」

「アカシックレコードですかぁ・・・」ちょっと待ってくださいね

と、何処かに確認をとる様な感じで
虚空を見つめて、そして「OKだそうです」と一言
やっぱ誰かに聞いてるなあとか思いながら、胡坐の上ではイリスち
やんがスヤスヤと寝てたりする。

その後も少し能力のことを話しながら、世界の渡り方・アカシック
レコードへの繋ぎ方などのやり方を
教わる

そしてこの場所は、世界とは隔絶された場所らしく最初はヤハウエ
さんが送ってくれるとの事

それならばと「最初は天地無用の世界に行きたい」と言ったら「わ
かりましたあ」と

真下に黒い穴……

俺は……イリスちゃんごと落ちていきました!!

1話・初めはやはり落ちるのがテンプレ？笑

ヒューーーーン

音の通りただ今絶賛落下中です

一緒に落ちたはずのイリスの姿が無いのに気が付きましたがそれどころじゃないです

下の方に山に囲まれた小さな湖が見えていました

「この高さは死ねるうう~~~~」

ザッパーーーン

「ん、美星殿かい？」

と、湖のほとりにある家から赤い髪の少女が出てきました

「鷺羽おねえちゃん？どうかしたの？」

と、青い髪をツインテールにした少女がその後をついて来ました

「いやね？警報も鳴らさずに湖に何かが落ちてきたみたいでね？」

美星殿かな？と鷺羽と呼ばれた少女が答えていた

「鷺羽おねえちゃん！！あそこ！！」

湖の中央辺りに浮かぶ人影を見つけた青髪の少女が叫んだ

「ふむ、そのままにはしておけないね。砂沙美ちゃん家に上げるからタオル持ってきてくれる？」

「分かった！！」

と砂沙美と呼ばれた青髪の少女はスリッパをパタパタさせながら家の中に走っていった

ムクッ

ベットの上で上半身を起こし、寝ぼけながらも知らない部屋にいる

ことに気が付き

「あー・・・何処ココ？」

目を擦りながら辺りを見回すと、椅子に座りながら空中に浮いた半透明の板状の物にカタカタカタと何かをしている

赤い髪の少女がいた。

「お、起きたね！まずは、私の名前は白眉鷺羽　はくびわしゅう
鷺羽ちゃんって呼んでね！」

あとは、あなたの名前と、家の前の湖に落ちてきたのだけれど、どうしてというよりも何処から落ちて来たのか分かる？」

「えっと・・・名前は雅　ミヤビ　？神様に落とされた？って感じかな？」

と言いながら、『落ちてきた』と言われたの思い出して自分の体に怪我が無いかを確認して違和感を感じた

「えーと、鷺羽ちゃん？鏡が何か無いかな？」

「何かおかしな事でもあったかい？」と何処からか出した手鏡を渡してくれた

「あー、やっぱりと言うかテンプレと言うか、こんなことになったか」

鏡に映った顔を見るとそれはさっきまで一緒にいたイリスの顔が映っていた

体のほうもイリスちゃんの体みたいで、自分の目で確認できる範囲でも手足が小さくなっているのに気が付く

そして、軽く体を弄り体が男性のものだと確認（自分的にココ重要）をして安堵の息をする

「ところで、神様に落とされた？とか言ってたけどこっちにも分かる様に説明できるかい？」

説明か〜と思いつながらこれからどうするか考え、今できることを考える

「そつだなあ、鷺羽ちゃんは異世界や輪廻転生とかって信じる？」

「ふむ、異世界ねえ」と言いながら目を細めこちらの考えを読もうと見ている

「まあ、高次元の三神の一人の鷺羽ちゃん力なら輪廻から外れた魂も、もう一度生を与える事はできそうだけどね」

そう言うと鷺羽ちゃんは目を見開き驚いたが、すぐに面白そうな顔になって聞いてきた

「ふむ、雅殿はそれを知りながら私をどうしたいのかな？」

「そうだねえ・・・鷺羽ちゃんの下でお勉強したいかな？」

そんな風に笑いながら返したら、鷺羽ちゃんはまた少し驚いた顔をした後面白いものを見たような笑顔で

「いいねえ、色々と雅殿に私の知識と技術を伝授しようかね」と笑いながら返してきた

「そだ、鷺羽ちゃん！大事なことがあった！！」と神妙な顔で鷺羽ちゃんに話しかける

「どうしたんだい？そんな神妙な顔して、なにかあったかい？」

「うん、とっても大事なことを思い出した」と鷺羽ちゃんに手招きをする

「ふむ」と真剣な顔をして鷺羽ちゃんが顔を近づけてきたその耳に囁く

「住む所どころか何も持って無いや」と一言

「そういえば着の身着のまま、落ちてきてたねえ・・・よし！住む所はここで暮らせるように私も口を利こうかね

それで、扱いは私の弟子でいいかな？」

「鷺羽ちゃんありがとう」と抱きついたら掛かっていたシーツがはだけた

そこには美しい少女の顔に、真っ黒な光沢のある髪を腰の辺りまで伸ばし透き通る様な真っ白い肌をした男の体

湖に落ちたため濡れた服を脱がされ、体を隠すものも無くそのすべてをさらけ出していた

コンコン

「鷺羽お姉ちゃん、さっきの子起きた〜？」と青い髪の子が入ってきて固まった

そこには裸の子共が鷺羽に抱きついてる姿がある

「えーと・・・男の子？」と裸の体をくまなく見た砂沙美はボンとなりそうなほど顔を赤らめまた固まってしまった

「あーひとまずシーツを被ってくれるかな・・・後、この子は砂沙美ちゃんねココと一緒に住んでいる一人だからよろしく頼むよ」

鷺羽はシーツを被るよう指示した後、砂沙美ちゃんの方に行き簡単な説明をし服を受け取っていた

「雅殿は、服着たらまたチョット寝ときな一応ココの家主の天地てんち 殿に話を通してくるから」

そう言い鷺羽は部屋を出て行った

2話・男の娘が可愛いのはテンプレ（笑）（前書き）

読んでくれている皆さんに感謝をこめて『いただきます』って違う（笑）

ども！大雅です！気分ですべて書いていたので亀更新だったりしますが楽しんでください

2話・男の娘が可愛いのはテンプレ(笑)

コンコン

「雅殿、起きてるかい？」

窓の外が赤く色づき始めた頃、ドアをノックする音と共に鷺羽ちゃんの声が聞こえた

「はい、今起きましたー」

返事を返すと、ドアを開け鷺羽ちゃんが入ってきた

「ん、おはよう雅殿、さつき畑から帰ってきた天地殿に雅殿をこの家に住まわせる許可を取ったから

この家の住人達の紹介がてら顔見せするから一緒に来てくれるかな？」

「わかりました、チョット待つてくださいね・・・」

と言い、4歳児ほどに小さくなった自分の体を動かすのにシクハクしながらベットを降りた

「そだ、鷺羽ちゃんには先に言つときたいことがあるんだ」

「ん？なんだい？」

「助けてくれてありがとうございます」

とペコリと頭を下げ笑顔を向ける

「なんだい？そんなことかい・・・いいんだよそんなこと」

と鷺羽ちゃん。だけど微妙に頬が赤くなっていた。

「それと、自分の事について鷺羽ちゃんとは事情を共有しときたいんです」

そう言うと、鷺羽ちゃんが真面目な顔になり聞こうかと言った

「まずは・・・」と言いながら自分に起きたことを話し始めた

最初に、一回死に神と名乗るヤハウエと言う女性にあったという事

そして、その死んだ理由がイリスと言う名の少女の落書きであった事

さらに、転生してもらつ体にも3個ほど特典を付けてもらった事

なぜか、向こうから転生される時に、イリスも一緒に落とされたと思ったら、イリスの体が自分の体になつていた事

最後に、前世の自分の名前は思い出せないが『雅』と言う名前と前世の記憶は残っている事

「こんなところですかね？あとはー・・・前世は25歳だったってことぐらいかな？」

「ほー、興味深いねえ。」

「この事は一応、鷺羽ちゃんが話しても平気って人以外は話さないようにしてもらえます？」

「ふむ、まあそうだね・・・色々と混乱するだろうし、それが賢明か・・・」

鷺羽ちゃんは顎に人差し指をあて考えながら言った

「パタ・・・パタ・・・パタ・・・パタ・・・」

「うんしょ・・・うんしょ・・・うんしょ」

二階の部屋からリビングに行くのに階段を下りなければいけないのだが

「この体だと階段を下りるのも一苦労するね・・・」

「その大きさの体に合わせるように出来てる訳じゃないからねえ」

「後で、良い方法考えるところ・・・今は頑張つて下りないと・・・」

額にうつすら汗をかきながら階段を下りきつた

「皆待たせたね。この子が雅殿だ。私の弟子にする事にしたからよろしく頼むよ」

鷺羽ちゃんが私の背中を押し、リビングで寛いでいた6人に紹介をした

「よろしくお願ひします」と軽くお辞儀をし、6人を見た

「こちらこそよろしくね。俺の名前は柁木天地　まさきてんち　って言うんだ」と男性

「私は、柁木阿重霞樹雷　まさきあえかじゅらい　と申します。よ

ろしくお願いしますね」青みかかった黒髪の女性

「私は、砂沙美だよ！阿重霞おねえさまの妹なの！それとこの子が、
魍皇鬼 りょうおうき のりょうちゃんだよ」

と頭の上に乗っかっていている猫兔を指差して言う砂沙美ちゃん

「えーつと、九羅密美星 くらみつみほし ですう〜」と金髪で色
黒な女性

「魍呼 りょうこ だよ」とぶつきらぼうに白髪の女性

「もう、魍呼さんたら・・・私は神木ノイケ かみきのいけ です
よろしくね？」と緑髪の女性

「もういいだろー」とやる気の無い声が聞こえたと思ったら目の前
で浮かびだす魍呼さん

そのまま二階の高さにある梁に腰掛、お酒をチビチビと飲み始めた
「もう、魍呼さんたら」とノイケさんが苦笑していた

「後は、山の上にある神社の社務所に神主で天地殿の祖父である勝
仁 かつひと 殿が

それと父親の信行 のぶゆき 殿は再婚して、今は市内の方に住ん
でるよ」

と鷺羽ちゃんが教えてくれた

「そだ天地さん、確認したい事があるんですがいいですか？」

「なんだい？雅ちゃん？」

「あー、そこは男なので君で・・・」

「・・・えっ」「・・・」

天地さん、阿重霞さん、魍呼さん、ノイケさんの4人が目を見開き
驚いてきた

美星さんはと目を向けると・・・寝てた

「本当ですよー、あと天地さん額に触らせてもらえませんか？」

「ん？いいけどなにかあるのかい？」と私を抱き上げながら聞いて
きた

「まあ・・・確認したいなものです」といい天地さんの額に触れ

『アクセス』と呟く

頭の中に色々な情報が流れ込んでくるのを整理しながら目当ての情報を見つける

「ありがとうございます」と言い天地さんに降ろして貰うと

「んーと・・・情報を解析・・・こんな感じかなあ？」と言いながら背中に力を入れる感じで試してみる

そうすると、背中から蝶の羽の様な形の4枚の光の羽が形成された
「うん！こんな感じかな？」と重力から開放されたように宙に浮く
「・・・・・・はあ？」「・・・・・・」

とその姿を見た美星さん（寝てる）以外の皆が驚くなか、鷲羽ちゃん
んが聞いてきた

「みつ雅殿？それはもしかしなくても光鷹翼　こうおうよく　だよ
ね？」

「ん？そうですよ？」と言うと、宙を上に行ったり下に行ったりと
動いて

「うん！良い感じだね」と笑顔になる

それを見ていた美星さん（まだ寝てる）以外が

「・・・・・・うっ」「・・・・・・」

と顔を赤らめ鼻を押さえると横を向くと

（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）

皆の気持ちが一つになった瞬間だった。

3話・鷺羽ちゃんには実験がテンプレ(笑)(前書き)

何気無くアクセス解析を見てみたらPVが3900アクセスユニークが1500人を超していました

こんな駄文を読んでくださった皆様ありがとうございます

3話・鷺羽ちゃんには実験がテンプレ（笑）

榎木家の皆様との自己紹介が済んで1週間がたちました

この頃この生活にも慣れてきて言葉使いも砕けてきました

「みゃーみゃーみゃみゃみゃみゃみゃーみゃー」

只今りよーちゃん（人型）と話しているのですが、この魍皇鬼の言葉は高速言語になっていて慣れてくると何と言っているか分かる様になるんですよ

「みゃーみゃーみゃみゃ」

「ん？ご飯？鷺羽ちゃんを呼んで来てって？」

「みゃー」と、笑顔で頷く魍皇鬼

「それじゃあ、一緒に行こうか」

「みゃー」

カランカラン

階段下の扉を開け亜空間に作られた鷺羽ちゃんのラボに入っていった

「鷺羽ちゃん、ごはんだってー」「みゃー」

「わかったよ、あー・・・雅殿ちよつと待って」

「ん？どうしたの？」

「ちよつとコツチ来ておくれ」

「りよーちゃんは先に戻っておいてね？」

「みゃー」とドアから出て行った

「それで、何？」

鷺羽ちゃんの方に行く

ガシャーン

「へっ？」

鉄のアームで捕獲されてしまったところに

「雅殿、ちよつと実験しよつか？」

と不気味な笑顔の鷺羽ちゃん

「鷺羽ちゃん……マッドモードに入ってるね……」

「ムフフフ……さーて何からしよっか？」

「鷺羽ちゃん？ご飯さめちゃうよ？」

「すぐ終わるよ雅殿」

鷺羽ちゃんが両手をワキワキしながら近づいてくる

「もう……」

言いながら光鷹翼を展開すると

『ズルツ』と鳴りながらアームが切れ落ちる

「鷺羽ちゃん？」

ワキワキと動かしていた手が止まり汗をたらしながら

「あははははは……さて行くこうか……」

とドアの方に逃げていった

「もう、しょうがないんだから」

と言いながら鷺羽ちゃんに続いてラボから出て行った

『『いただきまーす』』

今日は天地さんの父親の信幸さんとその奥さんの玲亜 れいあ さ
んそしてその子供の剣士 けんし 君が来ていた

剣士君はまだ2歳らしくまだうまく歩くこともできないようで玲亜
さんに抱かれながらご飯をてべていた

「おーそついえば、雅君だったかな？初めましてだね！僕は天地の
父親の信幸って言うんだよ」

と信行さんが丁寧に自己紹介してくれた

「私は玲亜って言うのよ、そしてこの子は剣士って言うの」

と玲亜さんが自分と剣士君の自己紹介をしてくれた

皆でご飯を食べ始めたところを外から『キィイーン』と音が聞こえ
てきた

そして皆で

『『美星殿か』』

「と言うと、家の前の湖に宇宙船が落ちてきた
そしてびしょ濡れの美星さんが縁側の方から
「鷺羽さ〜ん・・・落ちちゃいましたあ〜」

と涙目で言ってきた

「あ〜はいはい・・・後でやっておくよ」

手をヒラヒラさせて言った

「お願いしますう」

「美星お姉ちゃん！タオルタオル」

とスリッパをパタパタ鳴らしながら砂沙美ちゃんが持ってきたタオルを美星さんに渡すと

「ありがとうございますう」

とタオルで拭きだした

「美星！お風呂の方も入れるようにしといたわよ」とノイケさん

「そうですね？それじゃあ入ってきますう」

「鷺羽ちゃん宇宙船の方はラボのドッグに入れればいい？」

「雅殿、お願いできるかな？」

「はい」と手を上げながら返事を返し、鷺羽ちゃんが使った同じ半透明のキーボードを使い

カタカタカタとキーボードを打つ

ウンと音が鳴ると大質量の宇宙船が消える

「これでよし」と

「ん、ありがと雅殿」

「さてと、ご飯に戻ろう」

リビングに戻り、皆でご飯に戻った

カランカラン

食後にまた鷺羽ちゃんのラボに来ていた

「鷺羽ちゃん、ちょっと見てもらいたいものがあるんだけど？」

「何をだい？」

「こんなの出来る様になっただけ」

と光鷹翼を展開し、さらにその一枚を物質化を試みる

そうすると、物質化して無くなった光鷹翼があった場所に新しい光鷹翼が展開された

「光鷹翼の物質化!？」

「うん、自分の意思でエネルギー状態にも戻せたよ？」

と分かり易い様に指をパチンと鳴らすと物質化した光鷹翼がエネルギー状に戻り消えた

「雅殿、物質化した光鷹翼を研究させてくれないかい？」

「そう言うと思って、色々試してて出来たこれを渡そうと思って」

そう言うって飴玉ぐらいの大きさの丸く乳白色な結晶体を渡した

「なんかね？物質化を自分の意思で出来るようになって、どこまで強固に物質化できるのかな？って

やってたらエネルギー状に戻せないくらいに物質化しちゃってね？

ちようどいいから鷺羽ちゃんにあげようかと思って」

「ほー……これは……でも……ふむ……」とブツブツ言い出す鷺羽ちゃん

「鷺羽ちゃんなら、これからエネルギーを取り出す事もできるんじゃない？」

「ふむ、面白そうだね!!! ついでにこれ使って、雅殿用に宇宙船作ってみるかね？」

「本当!?! やったー」と鷺羽ちゃんに抱きつく

私の頭を撫でながら

「私の作る宇宙船って、魍皇鬼みたいな生体じんびつーたーPCやAIみたいなものを使って宇宙船の操船や火器管制の運用するんだけど

まずその核になるものを決めないといけないんだよね」

抱きついたまま見上げるように顔を向け

「それってどんなものでも良いの？」

「個人用に作るんだから、この場合は雅殿に合うモノを核にした方がいいし、私を作るんだからねえ……」

作るなら最高のもの作りたいじゃないか……」

言いながら、鷺羽ちゃんの目が妖しく光る

「さあ実験しよーかあ」

今回はしょうがないかのため息をつきながら二人でラボの奥に消えて行くのでした

3話・鷺羽ちゃんには実験がテンプレ（笑）（後書き）

UBW00さん感想ありがとうございました

いまだに色々と気分で書いてることが多いので他の方々も感想など
ありましたらお願いします

出来るだけ返そうとは考えていますが返せなかったらごめんなさい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2131y/>

異世界を渡る男の娘

2011年11月28日00時00分発行